

29. 東水沼 3-3 の遺跡

東水沼 3-3 は芳賀町域の西部にあたり、野元川右岸の宝積寺台地に位置する。「水沼」の地名は、野元川流域の湿地に由来するものと考えられる。本地域の西側は宇都宮市に隣接する。台地部が多いため、その斜面上が畑地、果樹園などに利用されている。

本地区には、後久保遺跡・後久保古墳・唐桶導水遺跡が周知の遺跡として存在し、今回新たに、古留南遺跡・和泉北遺跡・和泉遺跡の3遺跡を確認することができた。本地域では、弥生時代に属する遺跡の存在が注目される。

後久保古墳は南西面して築造された前方後円墳である。本古墳の北方約 500m にある唐桶溜を湧水点とする小河川による段丘端部に立地する。墳丘の保存状態は良好である。全長約 45m、後円部高さ約 2.5m、前方部高さ約 2m で前方部と後円部の比高は小さい。墳丘上に埴輪や葺石は認められない。埴輪を持たない前方後円墳ということから、築造時期は 7 世紀初めと考えられる。なお、本古墳のすぐ西方には見張古墳という円墳が存在するが、宇都宮市域に属するものである(塙 1983)。

和泉北遺跡は、東に低地を臨む緩斜面上に立地し、広範囲に縄文土器片の散布が認められた。また、少量ながら二軒屋式とみられる弥生土器片が採集されている。また、すぐ北側の古留南遺跡でも弥生土器片が採集されており、同一遺跡とすることもできるかもしれない。和泉遺跡は南北に細長い台地縁辺部に立地しており、わずかに土器片が散布していた。

(平久保直希)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
10	後久保遺跡	東水沼字後久保・古留2930		○	○	○	○			集落跡	台地	畑
35	後久保古墳	東水沼字後久保・古留2944				○				古墳	台地	畑
296	唐桶導水遺跡										台地	
297	古留南遺跡	東水沼字古留2952-1			○		○			散布地	台地	畑
298	和泉北遺跡	東水沼字和泉2971他		○	○	○				散布地	台地	畑
299	和泉遺跡	東水沼字和泉2990					○			散布地	台地	畑



東水沼3-3の遺跡分布図

30. 東水沼 3-2 の遺跡

東水沼 3-2 は芳賀町域の西部にあたり、野元川右岸宝積寺台地上に位置する。西側を宇都宮市に接し、台地部は畑作地帯、低地部は水田地帯となっている。

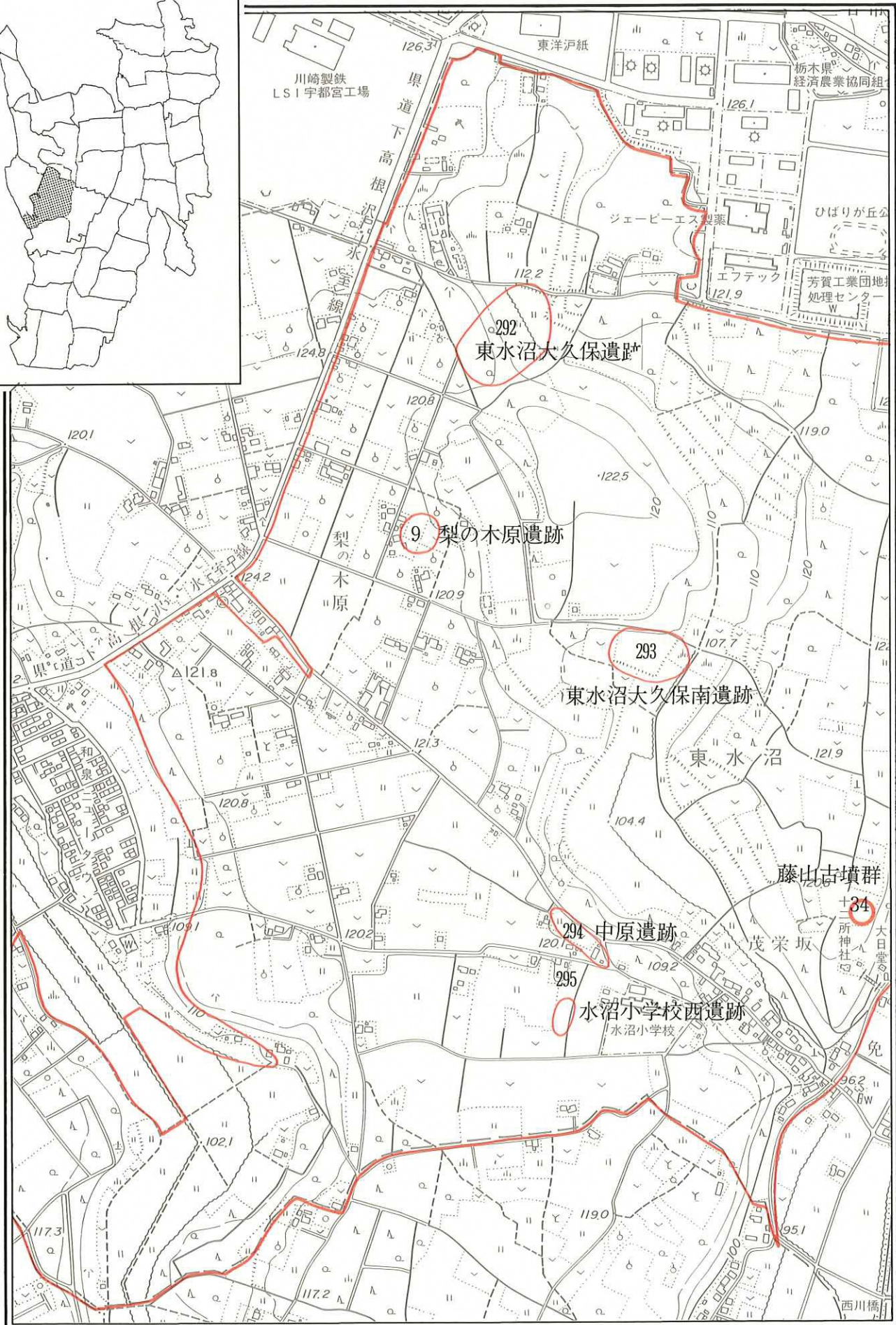
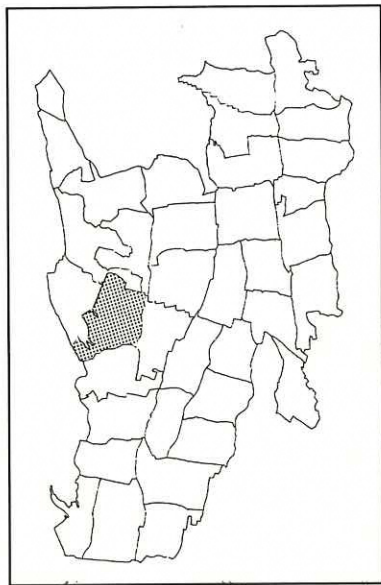
本地域には、梨の木原遺跡・藤山古墳群が周知の遺跡として存在している。今回新たに東水沼大久保遺跡・東水沼大久保南遺跡・中原遺跡・水沼小学校西遺跡の 4 遺跡を確認することができた。次に主要な遺跡の紹介をしたい。

藤山古墳群は、野元川右岸宝積寺台地上に位置し、前方後円墳 1 基、円墳 4 基の 5 基で構成されている。主墳の藤山古墳は全長 49.5m、前方部高・後円部高とも 3m の前方後円墳であり、西面して築造されている。埋葬施設は未調査であるが、前方部高と後円部高がほぼ等しいことや埴輪が伴うことから、6 世紀後半の築造と考えられる（埴 1983）。本墳以外の円墳も同時期の築造とみられる。南側に十二所神社があり、付近は山林になっている。

東水沼大久保遺跡は、野元川右岸の宝積寺台地上に位置する奈良・平安時代の集落跡である。南に谷頭を臨む斜面に立地している。現状は牧草地の為遺跡の範囲は不明であるが、大規模な遺跡の可能性はある。

(大沼正代)

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
9	梨の木原遺跡	東水沼字梨の木原		○		○	○			集落跡	丘陵	畑
34	藤山古墳群	東水沼字免の内台				○				古墳群	台地	田・畑・山林
292	東水沼大久保遺跡	東水沼字大久保2756-1、1542				○	○			集落跡	台地	牧草地
293	東水沼大久保南遺跡	東水沼字大久保1610					○			散布地	台地	田・畑
294	中原遺跡	東水沼字中原1716-1		○						散布地	台地	田・畑
295	水沼小学校西遺跡	東水沼字中原1722-36・37		○						散布地	台地	畑



東水沼3-2の遺跡分布図

31. 東水沼 3-1 の遺跡

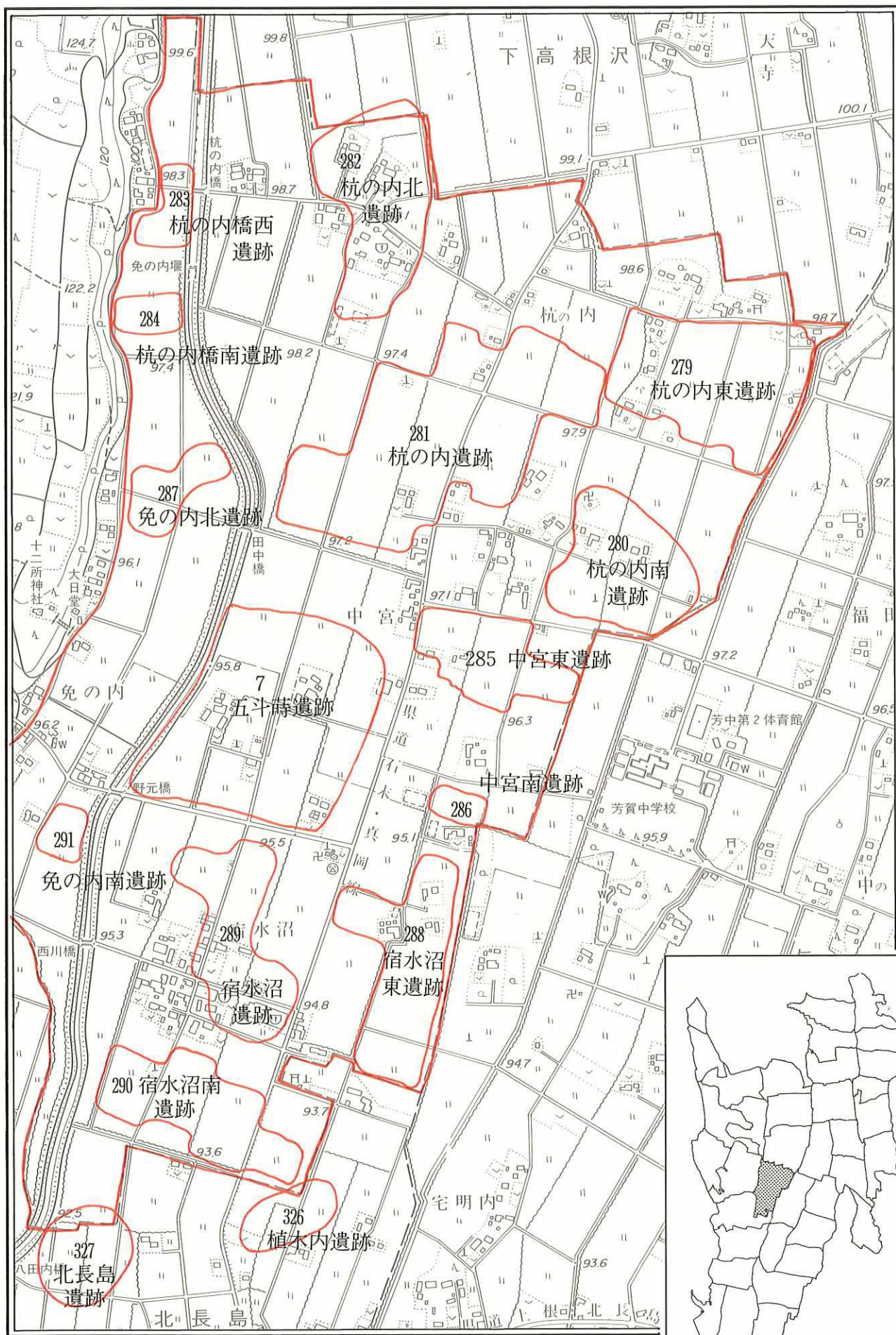
東水沼 3-1 は芳賀町中央部に位置し、五行川低地に立地している。

本地区は周知の遺跡として五斗蒔遺跡があり、今回新たに杭の内東遺跡・杭の内南遺跡・杭の内遺跡・杭の内北遺跡・杭の内橋西遺跡・杭の内橋南遺跡・中宮東遺跡・中宮南遺跡・免の内北遺跡・宿水沼東遺跡・宿水沼遺跡・宿水沼南遺跡・免の内南遺跡の 13 遺跡を確認した。

五斗蒔遺跡は五行川低地の平坦部に立地しており、縄文時代後期の堀之内Ⅰ式の土器が出土していることから後期の集落跡と考えられる（埴 1963）。

新発見の遺跡はほとんどが低地にあり、大規模な遺跡が予想されることから比較的大きめに範囲を取っている。遺跡は縄文時代、奈良・平安時代、中・近世の遺跡であるが、中心となるのは奈良・平安時代から中世にかけての遺跡である。遺物も土師器・須恵器・中世陶器・内耳土器が多く、他に縄文土器・近世陶器がある。また、杭の内遺跡では 1 点ではあるが弥生土器を採集しており、類例の少ない弥生時代の遺跡の良好な資料となる可能性がある。（塩谷慎介）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
7	五斗蒔遺跡	東水沼字宿750		○		○	○			集落跡	平地	畑
279	杭の内東遺跡	東水沼字杭の内203～257		○			○	○		散布地	低（湿）地	田・畑
280	杭の内南遺跡	東水沼字杭の内125～160					○	○		散布地	低（湿）地	田・畑
281	杭の内遺跡	東水沼字杭の内358他		○	○		○	○		集落跡	微高地	田・畑
282	杭の内北遺跡	東水沼字杭の内										
283	杭の内橋西遺跡	東水沼字										
284	杭の内橋南遺跡	東水沼字免の内783他		○			○			散布地	低（湿）地	田
285	中宮東遺跡	東水沼字中宮75～101					○	○	○	散布地	低（湿）地	田・畑
286	中宮南遺跡	東水沼字中宮										
287	免の内北遺跡	東水沼字免の内743他					○			散布地	低（湿）地	
288	宿水沼東遺跡	東水沼字宿水沼14～21、36～43					○	○	○	散布地	低（湿）地	田・畑
289	宿水沼遺跡	東水沼字宿水沼508～589		○			○	○		集落跡	低（湿）地	田・畑
290	宿水沼南遺跡	東水沼字宿水沼606～636					○	○	○	集落跡	低（湿）地	田・畑
291	免の内南遺跡	東水沼字免の内						○		散布地	低（湿）地	田



東水沼3-1の遺跡分布図

32. 西水沼 2-2 の遺跡

西水沼 2-2 は芳賀町の西部のあたり、鬼怒川左岸、五行川支流の野元川流域に位置する。西部は台地、中・東部は野元川の形成した沖積平地になっている。野元川沿いは水田として利用され、台地上は畑地や山林が多い。

本地域には谷近台古墳群や古墳時代前期に属する代表的な集落跡のひとつである谷近台遺跡も所在している。今回の調査で新たに堀込遺跡・上原遺跡・中久保西遺跡・谷近遺跡・植木内遺跡・北長島遺跡の 6 遺跡が確認された。

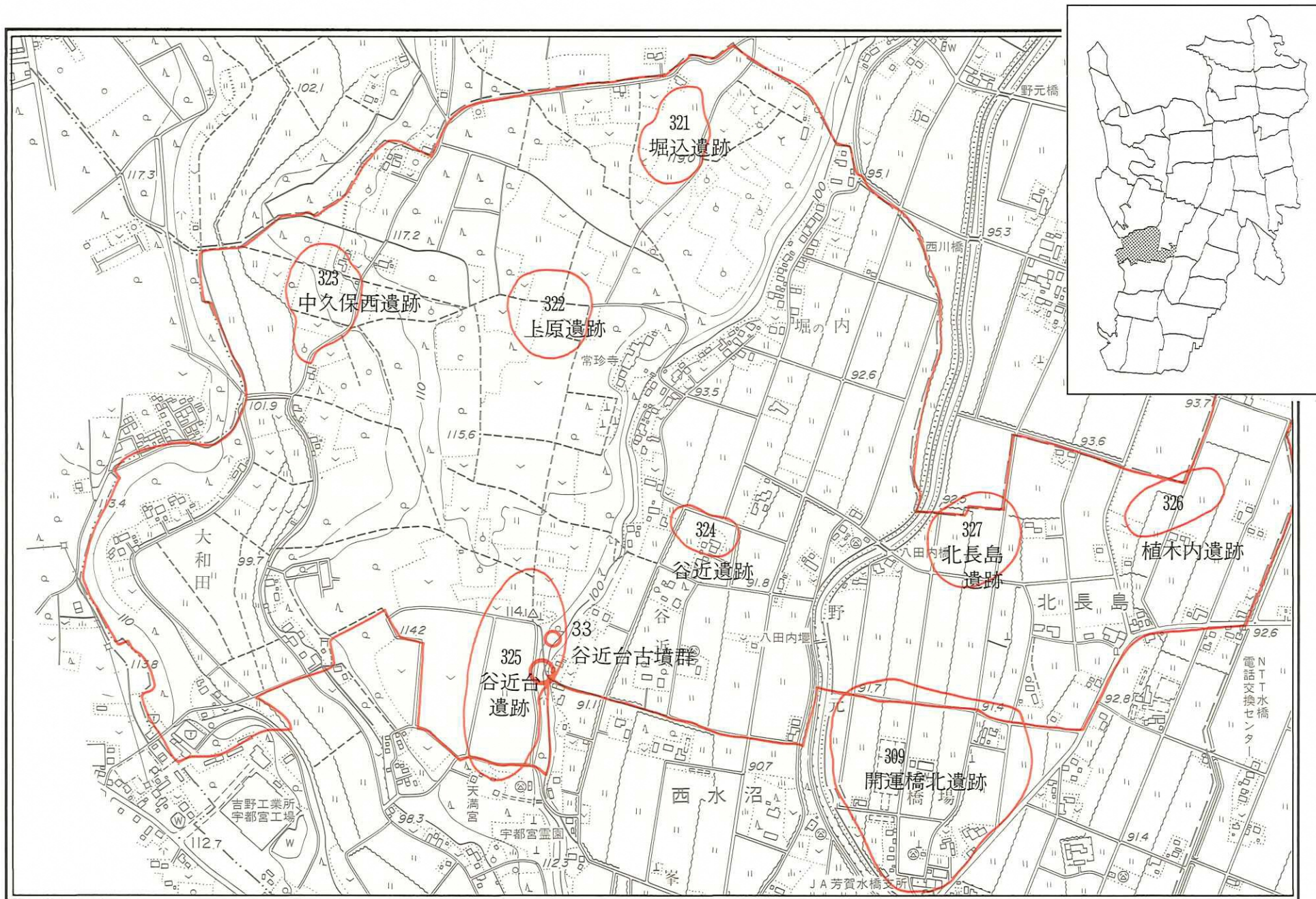
谷近台古墳群は、西水沼字谷近台に所在する円墳 6 基からなる古墳群である。宝積寺台地東端の南に浅い谷を望む台地上に築造されている。東方崖下には野元川が南流する。古墳群中の 1 基が剣塚古墳（錫状塚古墳）と呼ばれる。昭和 49 年に芳賀町教育委員会が主体となって調査した際に、鉄剣が出土したためこの名がつけられた。常珍寺の南方に位置する古墳群は山林・畑地の中にある。剣塚古墳は径約 20m、高さ 2m の円墳で、墳丘頂下から箱式石棺が発見されている。石棺内より鉄剣（長さ 73 cm・最大幅 4 cm）・鉄鏃 10 本が発見されており、5 世紀後半の築造と考えられている。他の 5 基の円墳については築造時期が不明である（大金 1974）。

谷近台遺跡は西水沼地内の真岡台地東端に位置し、眼下に五行川の支流である野元川の流れを望むことができる。昭和 49 年に行われた剣塚古墳の周溝調査に伴って、古墳時代前期の住居跡が発見され、翌 50 年に集落跡の本格的調査が実施された。発掘の結果、7 軒のほぼ同時期の住居跡が検出され、130 点以上の土器が出土した（埴 1975）。

今回確認された遺跡の多くは野元川沿いの微高地および台地上に位置している。堀込遺跡では散布は比較的小範囲だが、縄文土器片・石器・土師器片を採集した。おそらく湧水点を中心に遺跡が形成されていたものと考えられる。谷近遺跡は谷近台遺跡の北東に位置し、少量ではあるが土師器片が散布する。植木内遺跡・上原遺跡・中久保遺跡からは少量の土師器片が確認された。北長島遺跡からは土師器の器台片（古墳時代前期）が出土している。

（大島美智子）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
33	谷近台古墳群	西水沼字谷近台				○				古墳群	台地	山林・畑・墓地
321	堀込遺跡	西水沼字堀込1473他		○			○		○	集落跡	台地	畑
322	上原遺跡	西水沼字上原1424他				○				散布地	台地	畑
323	中久保西遺跡	西水沼字中久保2449		○			○			散布地	台地	畑
324	谷近遺跡	西水沼字谷近889他							○	散布地	微高地	田
325	谷近台遺跡	西水沼字錫杖塚1272他		○	○	○	○			集落跡	台地	畑
326	植木内遺跡	西水沼字						○		散布地	微高地	田
327	北長島遺跡	西水沼字野元東266他				○				散布地	微高地	田



西水沼2-2の遺跡分布図

33. 西水沼 2-1 の遺跡

西水沼 2-1 は芳賀町の南西部にあたり、野元川が南流する五行川低地と宝積寺台地とが接する地域に位置する。本地区の西側は宇都宮市に隣接する。

本地区には、舟戸城跡が周知の遺跡として存在し、今回新たに、野元東遺跡・開運橋北遺跡・山下東遺跡・水橋小学校南遺跡・監物橋西遺跡・野元西遺跡・舟戸古墳群・舟戸東遺跡・舟戸台北遺跡・舟戸西遺跡・舟戸遺跡・舟戸南遺跡の12遺跡を確認することができた。

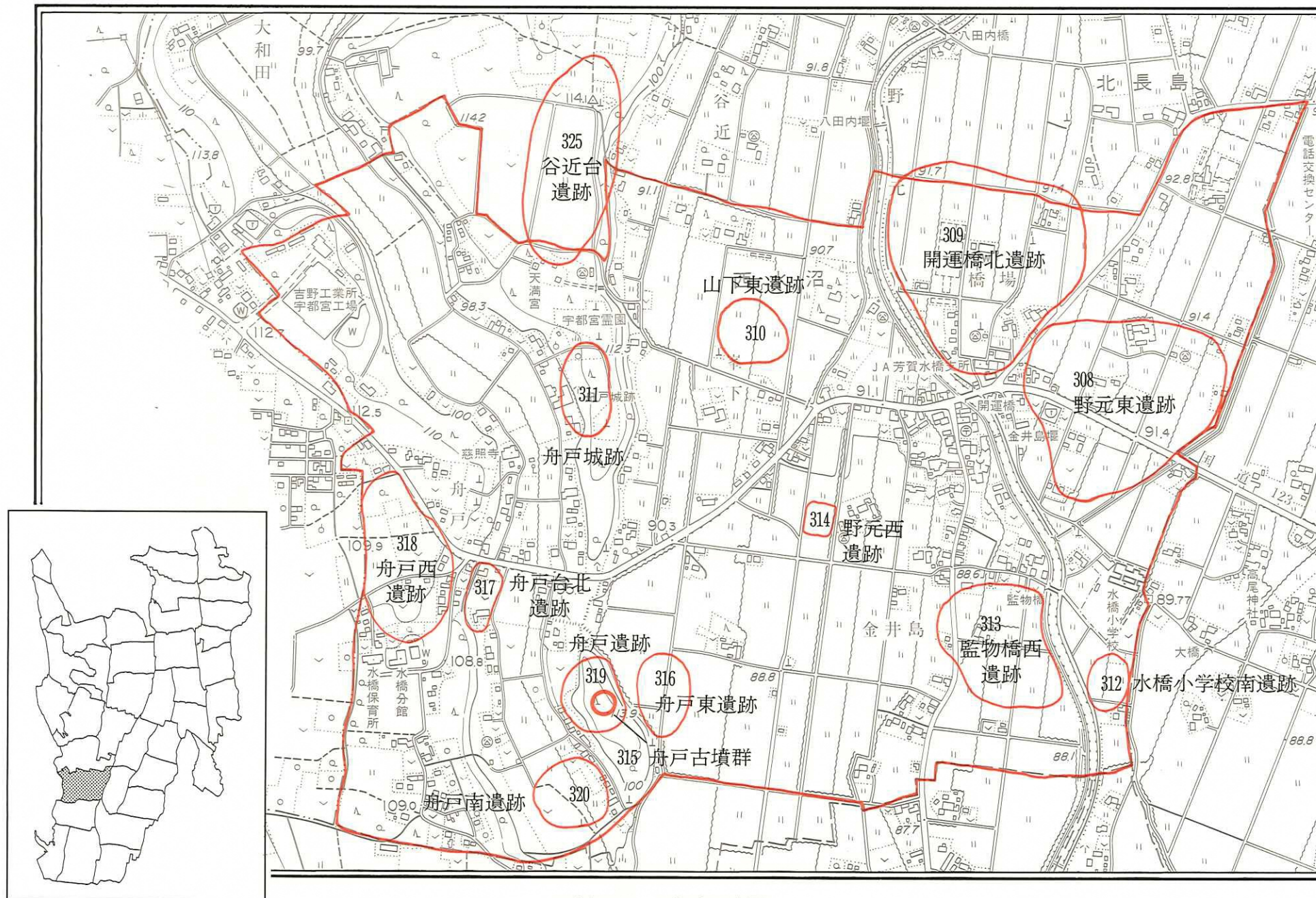
舟戸城跡は宝積寺台地東縁部に位置する。城域は山林となっており、堀跡などの遺構が残存する。規模は東西約 130m、南北約 550m であり、城郭の東側は断崖となっている。南側から西側にかけて空堀がめぐる。築城者、築年代の詳細は未定だが、応永年間の水沼主水勝侶による築城と、天文年間の宇都宮氏家臣水沼五郎による築城という、2つの説がある（橋本 1998）。

舟戸古墳群は、野元川右岸の段丘崖に立地し、2基の円墳で形成される。北側の1号墳は径約 7m、南側の2号古墳は径約 15m である。両古墳の間隔は、約 35m である。

監物橋西遺跡は野元川右岸の自然堤防上に立地し、縄文時代中期から後期の土器片が比較的多数採集された。しかしながら、本地区の水田地帯は、2回以上の土地整理が行われており、遺跡は大きく破壊されているものと考えられる。その他、本地区には古墳時代及び奈良・平安時代に属する集落跡と考えられる遺跡が多く確認されているが、土地整理の影響を受けているものと考えられる。

（平久保直希）

芳賀町遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	種類	立地	現状
308	野元東遺跡	西水沼字野元東42-3他					○			散布地	低（湿）地	田
309	開運橋北遺跡	西水沼字久保ノ内201他				○				散布地	低（湿）地	田・宅地
310	山下東遺跡	西水沼字山下689他		○						散布地	低（湿）地	田
311	舟戸城跡							○		城館跡		
312	水橋小学校南遺跡	西水沼字石田10他				○				散布地	低（湿）地	田
313	監物橋西遺跡	西水沼字金井島502-1他		○						集落跡	自然堤防	田
314	野元西遺跡	西水沼字野元西470-1他		○						散布地	低（湿）地	田
315	舟戸古墳群	西水沼字舟戸1799				○				古墳	段丘	山林
316	舟戸東遺跡	西水沼字舟戸559他				○				散布地	低（湿）地	田
317	舟戸台北遺跡	西水沼字舟戸台1025-2他				○				散布地	台地	畑
318	舟戸西遺跡	西水沼字舟戸西2209-1他				○	○			集落跡	台地	畑
319	舟戸遺跡	西水沼字舟戸1796-1他		○		○				集落跡	段丘	畑・山林
320	舟戸南遺跡	西水沼字舟戸1812-1他				○				散布地	台地	畑



西水沼2-1の遺跡分布図